

**Q** **聴覚障がい児への支援について**  
 聴覚障害は早期に発見され、適切な支援が行われた場合にはより有効に音声言語の発達を促すことが可能となっている。そのため、早期支援の取り組みが極めて重要である。さいたま市で取り組みを強化すべきでは？

**A** 清水市長答弁:新生児聴覚検査は全ての新生児に必要な検査であると認識している。検査の100%実施率にむけて啓発活動の強化や未実施者への働きかけを強化していく。検査の助成費用も検討していく。

**Q** **災害用液体ミルクの備蓄について**  
 液体ミルクは災害時にはそのまま授乳できるため極めて有用である。保管環境やローリングストックの課題は工夫により十分にクリアできるものとする。備蓄品として導入計画があるか？

**A** 総務局長答弁:使い捨て哺乳ビンについては今年度備蓄を予定している。液体ミルクの導入はローリングストックの手法について他市を参考にし、備蓄する方向で検討していく。

**Q** **ヤングケアラー(家族のケアを担っている子どもたち)への支援について**  
 ヤングケアラーは本来の学業や友人関係に支障をきたしている状況が予想され、適切な支援につなげて行く必要があるが、市の取り組みは？

**A** 子ども未来局長答弁:ヤングケアラーと言われる子どもたちについて、教育機関を通じた調査を検討していく。要保護児童対策地域協議会に登録される虐待による保護が必要な子どもについてヤングケアラーの視点をもって関係部局と密接に連携をとり、家事援助や福祉サービスにつなげていく。

**Q** **川越線の複線化について**  
 JR川越線の荒川橋梁架替が決定しているこのタイミングを逃さないよう、複線化にむけた要望活動をしっかり行っていただきたいが、市の対策は？

**A** 都市局長答弁:11月に「JR川越線橋梁架替にあたり複線化が可能な構造に関する技術支援」を国に要望している。沿線自治体での協議会で要望を継続していく。

**Q** **ハンセン病に対する偏見や差別解消の教育の実施について**  
 ハンセン病を通じて命や偏見への教育は重要と考えるが市での取り組みは？

**A** 細田教育長答弁:人権教育主任研修会で当事者による講演会を行うことや教職員のハンセン病資料館などの現地研修会を開催していきたい。

## 子どもたちがのびのび育つまち



馬宮東小学校のさくらそう放課後児童クラブが西遊馬の東間集落センターをお借りして移転しました。学校から近く明るく広い施設です。



さいたま市立病院が1月から新病院に。病床数が70床増え637床へ。救急医療の充実や最先端の医療機器、緩和ケアなどが導入されます。



宝来地区ローソン向かいから宝来ゴルフセンターまでの歩道が舗装されました。子どもたちにとって安全な通学路になりました。



都市計画道路 指扇中央通線と文化センター通りの整備事業が行われます。交通の安全確保と災害時の避難経路として重要な道路です



セカンドライフ支援センター(愛称「り・とらいふ」)が浦和駅東口コムナーレ9階に開設しました。ボランティアや就労の相談窓口です。



西区役所前の看護研修センターで毎月第一土曜日(9:30~12:30)「まちな保健室」が開催されています。子育てや健康、介護などについて無料で看護師が相談にのります。お気軽にお立ち寄りください。